

埋文

とやま

Toyama Prefectural Center for Archaeological Operations

2025.6.30

VOL.

171



加納南9号墳出土品（氷見市加納）
《鉄銚》

銚は剣状にした両刃の金属を、長い木などの柄の先に挿して、敵を叩いたり刺したりする武器です。写真の鉄銚は、下半部が断面八角形の袋状になっています。柄を抜けにくくする工夫でしょうか。袋状の内側に木の痕跡がなかったことから、副葬されるときには柄を外した状態だったと考えられます。また金属学的調査の結果から、何回も折り返しが行われた丁寧なつくりの鍛造品であったことがわかっています。

とっておき埋文講座●企画展「見て、知って！とやまヒストリー 2025」

埋文あらかると①●考古学少年団 活動紹介

②●刊行！富山県出土の重要考古資料第17集 とやまの弥生時代集落遺跡出土品

Center Flash●夏の催しガイド2025

●ひとのうごき

古写真発掘！●猿丸太夫塚、小井波五輪塔群 富山市八尾町小井波

富山県埋蔵文化財センター

企画展「見て、知って!とやまヒストリー 2025」

とっておき埋文講座 —富山県の旧石器時代から近現代までの歴史を発掘出土品から学ぶ—

はじめに

この企画展は、主に歴史学習を始め、小学6年生や中学生向けに、県内の遺跡から発掘された出土品を通して歴史への関心を深めてもらうことをねらいとしています。さらに、歴史や考古学に詳しい大人にも興味をもってもらえるよう、数多くの出土品の中から特徴的なものを厳選して展示しました。

特設コーナー



今年度の特設コーナーは「TOYAMA MAIBUN COLLECTION」です。いつの時代でもおしゃれをしたいという思いを感じてもらえるよう、それぞれの時代のおしゃれを感じる出土品と共にパネルで紹介しています。また、マネキンを用いたファッションショーや、いろいろな時代の服や装飾品を試着できる「なりきり体験コーナー」を設け、実感を伴

いながら楽しく歴史を学べるように工夫しました。

それでは、各時代の見どころについて、簡単に紹介します。

旧石器時代

人類が石器を使い始めた旧石器時代の遺跡は、県内に約140遺跡あり、今回は直坂I・II遺跡(富山市(大沢野町))、立美遺跡(南砺市(福光町))の石器(県指定有形文化財)等を展示しています。直坂I遺跡の接合資料は、石の割れ方から当時の石器の作り方が分かる重要な資料です。立美遺跡の石器は約1,350点出土しており、その約9割が黒曜石製です。黒曜石製石器の中には遺跡から約680kmも離れた青森県深浦産のものがあります。



縄文時代

この時代の名前の由来となった縄文土器は、草創期を除いた早期・前期・

中期・後期・晩期のものを展示しています。早期から順に見ていくと、器形や文様が時代によって大きく変化していることがわかります。

また、長山遺跡(富山市(八尾町))から出土した土偶には「おさげ髪」を表現したものがあり、縄文人の髪形を知ることができる貴重なものです。

石器には石棒や石冠、御物石器など、用途不明のものも見られます。上久津呂中屋遺跡(氷見市)の結歯式竪櫛や国の重要文化財に指定されている境A遺跡(朝日町)の硬玉製大珠、平岡遺跡(富山市)の球状耳飾など、縄文時代の装飾品を多数展示しています。これらは、「なりきり体験コーナー」で復元品を試着することができます。



弥生時代

弥生時代は大陸から稲作が伝わった時代です。稲作の始まりによって、食料を生産できるようになった一方、貧富や身分の差、争いが生まれました。



江上A遺跡(上市町)の炭化米や泥
付け付きの鍬、下老子笹川遺跡(高岡
市)の石包丁など、稲作に関連する出
土品を展示しました。

弥生土器は縄文土器に比べ形や文様
がシンプルで、米を炊く際に熱効率
がよい器形へと変化しています。

江尻遺跡(高岡市)の木製短甲は富
山県唯一の貴重な出土品です。惣領
浦之前遺跡(氷見市)から出土した赤
い漆が塗られた木製の盾や剣、刀は、
実際の戦いではなく、祭りの道具と
して使われたものです。戦いを思わせ
るような勇ましい祭りだったのではな
いでしょうか。



古墳時代

古墳時代では、豪族などそれぞれの
地域で権力のある人が、力の象徴と
して大きな墓(=古墳)を造りました。
古墳からは鉄刀や銅鏡、玉類(アクセサ
リー)など、様々な出土品が見つか
っています。

また、この時代の土器は弥生土器か
ら続く野焼きで作られた土師器に加
えて渡来人によって新たに伝えられた
技術である窯で焼く須恵器が登場し
ます。加納南古墳群(氷見市)の須
恵器の筒形器台や壺などは、古墳の
葬送儀式で使われたもので、県の
有形文化財に指定されました。



古代

この時代になると、律令にもとづく
政治が行われるようになり、文字資
料が急激に増えます。女性の役職名「采

女」の文字が書かれた墨書土器や木
簡レプリカを展示しました。

また、任海宮田遺跡や小杉町流通業
務団地内遺跡群No.16遺跡の鳥形須
恵器からは、鳥が祭祀の場で伝統的
に神聖なものとされていたことがわ
かります。

仏教が広まったのもこの時代です。
石名田木舟遺跡(高岡市・小矢部市)
の阿彌陀三尊像は型に粘土を押し付
けて焼いた博仏と呼ばれ、兵庫県で
同じ型から作られたものが見つかり
ます。



中世

中世になると武士が台頭します。刀
の鐔や切羽、小柄など武士に関する
出土品も出てきます。

道場I遺跡(富山市)や井口本江遺跡
(高岡市)の烏帽子は、当時の成人男
性が必ず被っていた必需品です。「な
りきり体験コーナー」では立烏帽子と
折烏帽子のレプリカを試着すること
ができます。

中世の女性のお化粧であるお歯黒に
使う遺物では、友杉遺跡(富山市)の
お歯黒壺や石名田木舟遺跡(高岡市・
小矢部市)、梅原護摩堂遺跡(南砺市)
の鉄漿皿を展示しています。



近世

この時期は織田信長や豊臣秀吉の登
場により、戦国時代が終わります。秀
吉が天下統一した後、朝鮮を攻めた際
に連れてこられた職人たちが日本に伝
えた焼き物の技術で伊万里焼や唐津焼
などが始まり、全国へ流通しました。
県内各地の遺跡からも出土しています。

女性の髪を飾る簪や、今の口紅にあ
たる紅を入れた紅皿、刻みタバコを入
れるための煙管も展示しています。

富山県立図書館からお借りした市川
文書「甲冑の図」には、甲冑の各部分
の名前やその代金が記されています。
兜だけでも壱両三歩(現在の金額で
約175,000円)したことがわかります。



近現代

旧県会議事堂跡の煉瓦やガラス瓶、
小銃の玉、戦時統制下の陶磁器など
を展示しています。これらの展示品は
長い歴史の中では最近のものですが、
戦争の記憶を含め、未来へ伝える大
切な文化財です。

また、富山県公文書館からご提供い
ただいた北野家文書「国際画報」に
は和装と洋装の女性の姿が描かれて
います。和洋が混在した大正ロマン
を伝えるものであり、日本のファッ
ションの歴史に大きな変化が起こっ
たことがわかります。



終わりに

この企画展を通して、各時代を生
きた人々を身近に感じると共に、「
ふるさと」とやまの歴史(ヒストリー)
について興味・関心を深める一助
になればと願います。

ぜひ当センターへお越しください。
ご来館をお待ちしています。

(宮腰 真央)

埋文 あらかると①

考古学少年団 活動紹介

はじめに

考古学少年団は、小中学生に埋蔵文化財や考古学についてもっと深く知ってもらおうと、2020年（令和3年）に結成しました。

団員は考古学に興味のある小学（初等科）6年生～中学3年生（義務教育学校9年生）が対象で、結成初年度末に20名だった団員は、昨年度末で34名まで増え、ますます活気が増えています。

団の活動は年間10回程度で、講義、体験、展示解説、実地踏査を通して考古学や歴史について学びを深めています。

今回は、今年度で5年目を迎える考古学少年団のこれまでの活動の一部を紹介します。



講義

当センター職員による、考古学や遺跡、歴史について、または当日行う体験に関連する講義を通して、専門的な知識を深めます。

令和3年度に行った「発掘調査の流れと報告書」では、遺物・遺構の残り具合を調べる試掘調査から包含層（※遺物がたくさん含まれている地層）掘削や遺構掘削といった本格的な発掘調査、写真撮影や図面作成などの記録作業までの流れを学びました。また、現在は富山県陸上競技場となっている南中田D遺跡の大規模な発掘調査についての話では、多くの時間と人手を割いた大変な調査だったことを知りました。



令和5年度には「古墳時代のガラス玉の製作方法」と題して、出土品にみられる製法とその特徴を学びました。ガラス玉には外国産のものと日本産のものがあると知り驚いていました。講義で解説されたものを展示室で実際にみることができ興味津々でした。



今年度の最初の講義「考古学とは？」では、考古学について、研究対象となるもの、研究方法、発掘調査の作業内容など、基礎的な知識を学びました。



初めて少年団に参加する人も安心して参加できます。

展示解説

当センターでは企画展、特別展、市町村連携発掘速報展と、年に3回展示替えをします。考古学少年団の団員であれば、それぞれの展示の担当者による展示解説を聞くことができます。

令和5年度には特別展「黄泉つ国から」の解説を聞きました。富山県内の古墳副葬品を見ながら、とやまの古墳時代の様子について学びました。また、この年に県指定有形文化財に指定された「加納南9号墳出土品」も見ることができました。



令和6年度には企画展「見て、知って！とやまヒストリー 2024」の解説を聞きました。特設コーナー「とやまの何だコレ!?パワーアイテム」では祭りやまじないに使われたり、願いを込めて作られたりした出土品を紹介しました。出土品を見たり触れたりしながら、当時の人々の願いについて学びました。



また、「市町村連携発掘速報展」の解説では、各市町村で発掘された出土

品や、国の重要文化財に指定されている境A遺跡の出土品について解説を聞くことができました。

体験

様々な体験ができることも考古学少年団の魅力です。考古学の仕事に挑戦してみたり、昔の生活やものづくりを体験してみたりと、楽しみながら学ぶことができます。

令和4年度に行った「クロダイの前上顎骨を計測しよう」では、小竹貝塚の発掘調査で出土したクロダイの前上顎骨の長さをノギスという道具を使って測定しました。少年団が測定したたくさんのデータのおかげで、小竹貝塚の人々が捕獲していた縄文時代のクロダイの体長の傾向が分かりました。また、当時の魚を捕獲するための道具の変化を推測することができ、この活動が研究の一助となりました。



令和5年度に行った「竪杵・臼を使ってみよう」では、米作りが始まった弥生時代の脱穀の作業を、竪杵と木臼を使って行いました。竪杵で杵をついて脱穀することはなかなか難しく、杵殻を外せなかったり米を粉々にしてしまったりしました。団員たちは現代の機械の便利さや米を食べられることのありがたさを感じていました。



令和6年度に行った「貝輪をつくってみよう」では、縄文時代のアクセサリーである貝輪を当時の方法で作りました。ベンケイガイという大きな貝に石で穴

をあけ、その穴の周りを丁寧に叩いて広がっていきます。途中何度も失敗を繰り返しながらも何とか作り上げたとき、団員たちは喜びとともに「縄文時代の人も苦労して作っていたんだな」と昔の人々に思いをはせていました。



現地踏査

センター近辺にある遺跡へ出向き、遺跡を実際に見たり、職員から解説を聞いたりすることで、当時の様子をイメージしながら学習できます。

令和3年度に訪れた小竹貝塚、蛭ヶ森貝塚では、当時のヤマトシジミの殻が落ちているのを見つけて、射水平野が縄文時代前期には潟湖だったことを教わったりしました。団員たちはこの場所に貝塚があった理由を理解し、「ここが海だったのか」と信じられない様子で射水平野を眺めていました。



令和4年度には白鳥城跡へ行きました。ガイドの皆さんと遊歩道を歩きながら城の構造について教わりました。城の本丸があった場所にたどり着くと、見晴らしのよい素敵な景色が迎えてく

れました。富山城や安田城跡を見下ろすことができ、豊田秀吉が佐々成政を攻める際、白鳥城に本陣を置いたことに納得しました。



令和5年度には民俗民芸村近くの番神山古墳、番神山横穴墓に行きました。昭和時代の土砂採取の工事で墳丘の北半分が削られており、その断面を見て実際の墳丘の大きさに団員たちは驚いていました。



終わりに

卒団した人数を含め、現在(令和7年5月)のところ61名の団員たちが考古学少年団の一員として活動してきました。その中から将来、1人でも多く考古学者や埋蔵文化財保護の担い手が誕生することを期待しています。

今年度も魅力あふれる活動を行いたいと考えています。考古学少年団は常時新規団員を募集していますので、考古学や歴史に興味のある小中学生は、ぜひ参加してみてください。お待ちしております。

(金谷 奉賢)



富山県埋蔵文化財センター
ホームページ

団員募集中!

埋文 あらかると②

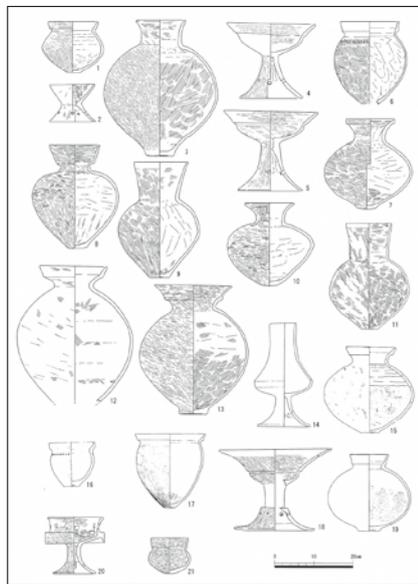
刊行! 富山県出土の重要考古資料第17集 とやまの弥生時代集落遺跡出土品

当センターは、平成19年度から、富山県の代表的な遺跡の出土品を紹介する冊子として『富山県出土の重要考古資料』を刊行してきました。今回は第17集として、弥生時代集落遺跡の出土品を紹介します。

現在、弥生時代の集落遺跡は県内で約400箇所確認されています。このうち当時の集落の様相を明らかにする重要度の高い資料に焦点をあて、4遺跡432点の出土品を選定しています。

特に射水市の上野遺跡の出土品は、弥生時代終末期における高地性集落の性格や当時の社会情勢を考える上で重要です。遺跡の発掘調査は北陸自動車道小杉インターチェンジの建設に伴い昭和45(1970)年に行われました。当時の富山県では、それまでに無い規模、期間の調査でした。調査成果としての遺物の写真や実測図は『富山県史考古資料編』などで報告されましたが、出土品の一部にとどまっていた。

本書ではその後再整理された遺物の中から、保存状態のよいものを重要考古資料として選定し、実測図のないものは新たに実測して掲載しました。これによりそれぞれの土器などの大きさや形、内外面の調整などがわかるようになっています。



上野遺跡土器実測図



装飾器台

裏表紙にも使われている装飾器台は、全体的な形のおもしろさもありますが、脚部と台上の受部に透かし孔という孔が開けられています。特に受部には、涙型と円形を組み合わせるなど、その名のとおり装飾性の高いものとなっています。

本書が富山県の貴重な文化財に興味を持つきっかけとなり、より関心を深めていただければ幸いです。

(青山 裕子)



上野遺跡出土品

Start up

チャレンジ とやまヒストリー 2025 開催!

考古学に触れられるプログラムをたくさん用意しています。
夏休みの課題にもぴったりです。ぜひ埋蔵文化財センターにお越しください。

① 親子で挑戦 ワクワク体験教室

親子で楽しみながら古代のものづくりにチャレンジします。

対象 小学校4～6年生の児童とその保護者

〈メニュー〉

- ・ 刀鍛冶の体験をしよう…………… 7月29日 7月30日 7月31日
- ・ 古代の鏡の鑄造を体験しよう…………… 8月2日 8月5日
- ・ クルミの垂飾づくりを体験しよう…………… 8月6日 8月7日
- ・ 縄燃りを体験しよう…………… 8月9日
- ・ 染物を体験しよう…………… 8月12日 8月13日
- ・ 大型まが玉づくりを体験しよう…………… 8月14日



全ての日程で、
午前・午後の2回ずつ開催します。
専用申込書による
事前申込が必要です。
R7年6月30日締切〈消印有効〉

② こども考古学講座

7月27日 8月3日 8月10日

対象 小学4～6年生（児童のみ参加）

（①と同様の事前申込が必要です。）

〈内容〉

- ・ 考古学って、発掘調査って何？
- ・ 富山県の遺跡って？
- ・ 本物の出土品をさわろう！
- ・ 普段は入れない収蔵庫を探検！
- ・ 拓本をとろう
- ・ 昔の文字を読み書きしよう（公文書館とのコラボ企画）

③ 夏休み考古体験コーナー まいぶん研究室

7月26日～8月24日

- ・ 校下の遺跡や出土品を調べたり、クイズコーナーなど楽しく考古体験ができたりする特設コーナーを開設します。

（事前申込は不要です。）

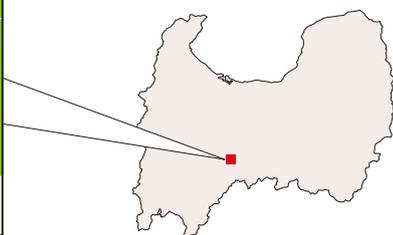
詳しくは、チラシ、HPでご確認ください。

人のうごき

4月1日付での異動をお知らせします。

■ 転出	副主幹	田中 道子	(公財)富山県文化振興財団へ
	副主幹	町田 尚美	(公財)富山県文化振興財団へ
	文化財保護主事	島井 瑞希	富山県生涯学習・文化財課へ
■ 転入	副主幹	絹野 元章	富山聴覚総合支援学校から
	文化財保護主事	傍島 健太	富山県生涯学習・文化財室から

古写真発掘!—《25》



猿丸太夫塚、小井波五輪塔群

昭和53年(1978年)撮影 富山市八尾町小井波

猿丸太夫塚、小井波五輪塔群は、共に富山市八尾町小井波の小盆地の標高約450~460mにあります。

ほ場整備事業に先立ち、試掘調査や分布調査が実施されました。その後、八尾町教育委員会が町内一帯の分布調査を実施した平成13(2001)年度の調査報告書でも紹介されています。

田んぼの中にポツンとある猿丸太夫塚(写真上)は、元はもっと大きな塚だったものが後世に削平されたものと考えられます。昭和53年の試掘調査では、塚表面から珠洲の破片1点が採集されただけでした。塚上の「猿丸太夫之塚」と刻まれた石碑は、明治時代に造り直されたものです。「猿丸太夫」は、平安時代の三十六歌仙の一人として有名ですが、全国各地にお墓や神社等が伝えられており、この塚もまたその一つと考えられています。

小井波五輪塔群は、猿丸太夫塚から約600m離れた所にあり、塚上に中世の五輪塔等が並びます。

いずれも八尾町小井波の歴史を物語る貴重な遺跡と言えます。

編集後記

6月になり暖かくなってきたと思っていたら、すぐに暑い日がやってきました。でも当センターは古い建物のおかげで少し肌寒いくらいの室温の時もあり、いまのところ快適に過ごしています。暑がりの方々! 当センターでは現在、p2・3でもご紹介している企画展「見て、知って! とやまヒストリー 2025」も開催していますので、是非体感しにいらしてください。(担当 青山)

富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」VOL.171

令和7年6月30日発行 編集/富山県埋蔵文化財センター 〒930-0115 富山市茶屋町206-3 TEL076-434-2814
URL <https://www.pref.toyama.jp/3041/miryokukankou/bunka/bunkazai/maibun/index.html>

